

事務事業名		都市公園維持管理事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業						
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造				事業期間		予算科目						
	施策名	良好な生活空間の創造						会計	款	項	目	事業		
	基本事業名	公園・緑地の整備						01	08	05	03	00		
根拠法令		都市公園法第2条の3												
所属	部課名	都市整備部住宅公園課				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和31 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度 ～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入								
	課長名	千葉 洋一												
	係 名	公園係	電話	0192-27-3111										
	担当者	佐藤 二美	内線	329										
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)										全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
都市公園を良好な状態に維持管理している事業。 都市公園(36箇所)を専門作業員1名と臨時職員1名の計2名で巡回し、施設点検や軽度の修繕作業を行っており、草刈作業や樹木剪定等の繁忙時には、シルバー人材センターからの派遣作業員を補充して対応している。 また、32箇所の都市公園には公園管理人(主に地域公民館長)を委嘱し、地域活動で草刈・清掃作業等の協力をいただいていた。現在は、都市公園愛護活動団体として主に地域公民館等の活動に対して報奨金を支出している。 このほか、毎年県から大船渡港緑地公園(サンアンドレス公園、みなと公園)の草刈・清掃業務及び盛川堤防法面の草刈業務も受託(主に外部委託で対応)していたが、東日本大震災後は県で維持管理している。 事業費は、公園の遊具修繕、施設の保守点検委託などに支出される。										総投入量 (千円)	事業費内訳	国庫支出金		
												都道府県支出金		
												地方債		
												その他		
												一般財源		
												事業費計(A)	0	
人件費	正規職員従事人数													
	延べ業務時間													
	人件費計(B)	0												
	トータルコスト(A)+(B)	0												

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標			
① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		
	名称	単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)	ア	作業員等の延べ実働人数	人
36箇所の都市公園の維持管理と県からの受託業務の実施	イ	公園管理人等の延べ活動参加人数	人
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	ウ	遊具の安全点検回数	回
引き続き、前年度と同様			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)		
	名称	単位	
公園利用者、公園施設	カ	都市公園の箇所数	箇所
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	キ	都市公園の面積	ha
	ク		
公園の設備や機能を常に良好な状態に保持する。	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)		
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	名称		単位
	サ	遊具の要修繕比率	%
	シ	利用者等からの苦情件数	件
	ス	公園内での事故件数	件
良好な公園・緑地が確保されている。			

(2) 総事業費・指標等の推移				年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
			都道府県支出金	千 円	3,231	1,573	2,111	3,300	3,300	3,300
			地方債	千 円						
			その他	千 円			52	52	52	52
			一般財源	千 円	14,668	9,195	50,196	15,000	15,000	15,000
	事業費計 (A)			千 円	17,899	10,768	52,359	18,352	18,352	18,352
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	
		人件費計 (B)	千 円	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	
		トータルコスト(A)+(B)			千 円	31,899	24,768	66,359	32,352	32,352
⑤活動指標		ア	人	520	520	520	520	520	520	
		イ	人	8,888	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000	
		ウ	回	1	2	2	2	2	2	
⑥対象指標		カ	箇所	36	36	36	36	36	36	
		キ	ha	25	25	25	25	25	25	
		ク								
⑦成果指標		サ	%	19	15	15	15	15	15	
		シ	件	1	0	0	0	0	1	
		ス	件	0	0	0	0	0	0	

事務事業ID	1179	事務事業名	都市公園維持管理事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 地域内の子供の遊び場や地域レクリエーション・コミュニティ活動等の場として、昭和31年に加茂公園等が開設され事業が開始された。その後も市内の都市公園整備が進むにつれて事業が拡大してきた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
 都市において緑とオープンスペースを確保する役割を持つ公園は、環境や防災上の観点からも重要性が増してきている。
 東日本大震災により、盛川河川敷、石橋前、諏訪前、笹崎、大田、大田南、みどり町公園が被災し、被災したトイレ、遊具等の修繕は平成24年度までに完了している。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 毎年、予算編成にかかる要望として、地域等各方面から市内の公園の整備・充実が多数あげられている。また、公園利用者からは、特にトイレの改築(水洗化、バリアフリー化)が要望されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 公園施設の適切な維持管理により、利用者が安全かつ快適に利用でき、良好な都市環境の保全につながる。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 公共の施設として市が設置し、管理運営している公園である。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象は、市が設置している都市公園と公園利用者に限定される。 意図としては、施設の設置目的やその機能を発揮する上で必要な事業であり適切である。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 施設の老朽化にともない修繕を必要とする箇所が増えており、現場作業員で補えないものについては外部発注が必要であるが、予算が十分に確保されない状況にある。さらに、将来的管理費用の縮減や施設の快適性の向上のためには、トイレをはじめとして施設更新を押し進めていくことが必要であると考え。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 施設の荒廃が進み、特に安全性が失われる。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市内に類似施設はあるが、設置目的により管理担当課が分かれている。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 施設数が多く、多種多様な管理作業や臨機応急的な対応が必要であることから、日常専門的に管理作業に当たる現場作業員の配置が必要であり、他の経費についても施設修繕や専門業者による保守管理のための委託費用がほとんどであるため、削減の余地がない。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現場作業員は、平成22年度より正職員2名から正職員1名と臨時職員1名の体制となっているが、作業効率の確保や安全対策上からも正職員2名の配置が望ましいと考えている。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 公園は一般に開放されているため、受益機会は公平である。また、不特定多数の人が利用する公共施設であるため、一部の有料公園の施設使用料以外に受益者負担の考えはない。	⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映

事務事業ID	1179	事務事業名	都市公園維持管理事業
--------	------	-------	------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 施設の機能性を向上させるとともに、将来的な管理費用の削減を図るため、老朽化に対応した施設更新と東日本大震災により流失した遊具等の整備を計画的に進める必要があると考える。																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 維持管理業務の人的体制については、作業効率や安全対策を考慮すると正職員2名が望ましい。施設の更新や拡充の検討については、財政的な問題が生ずるため、発展計画等での検討課題とする。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 特になし。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長		(氏 名)
2次評価者	住宅公園課長	千葉洋一

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 公園利用者に対して安全な施設を開放するために、適正な維持管理を推進していく。 なお、施設更新を計画的に進めることで、安全性の維持、将来的な管理費用の削減を図る必要があると考える。																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 市内の28公園の遊具については、昭和40年代から50年代にかけて整備されたものがほとんどであることから経年劣化による老朽化が進んでいる。遊具の安全基準・安全領域を確保し、公園利用者に対して安全な施設を開放するため、計画的な施設更新を進めていく必要があるが、現状においては、今までどおり適正な維持管理に努めていく。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
